

花 橘

「命いっばい、笑顔で、今日を生きる」

人権・同和教育研修課長 大西 純

発行日

令和5年10月26日

第8号

発行・編集

三崎高校総務課

平成二三年七月一日。この世にこんなに美しい声があるのかと思うくらい
の美しい産声をあげて、長女「愛」が誕生しました。生まれた瞬間、目は涙で溢
れ、今までにない感動と同時にこれからの育児の不安に襲われたことを覚えて
います。どうやって育てたらいいんだろう、何も言葉を発しないのに、この子の
気持ちをどうやって理解したらいいのだろう、考えれば考えるほど、不安は大き
くなるばかり。母乳育児だったので、最初は思うような母乳も出ず、母親として
失格だと病院の廊下で涙したことを覚えています。また帝王切開での出産だっ
たので、術後は体が思うように動かず、泣いている子供をすぐに抱きしめてあげ
ることもできず、とにかく最初の子供の時は、悔しい思いばかりして、気付けば
自然と泣いていたように思います。

初めての出産と同時に、私の父は最期を迎えようとしていました。いつも私を
支えてくれ、叱ってくれ、導いてくれた父。エコーにうつる子供が成長するにつ
れて、父の癌は進行し弱っていききました。「もう明日が山かもしれない」そんな
状況を何度も乗り越え、私は父になんとか孫を見せることができました。

八月五日。三日前から朝七時ごろ、母から電話が掛かるようになっていました。
何も話せない父に、私はいつも電話越しにピアノを弾いていました。父の好きだ
ったタイタニック愛のテーマ。「また明日も弾くんね」そう言っただけ電話を切っ
て、三時間後。娘にお乳をあげていると、母からの電話。電話の向こうの音で何
も言わなくても全てが理解できました。「わかった」そう言っただけ電話を切りまし
た。「父が死んだ」その現実と同時に、私の腕の中で幸せそうにお乳を飲んでい
る娘。娘を抱きしめてこう言いました。「愛ちゃん、ママを一分だけ泣かせて」
そう言っただけ、娘を抱きしめて、大声で泣きました。娘は、じっと私を見つめ、静
かに一分を待ってくれました。

「これから生きていくこの子の未来だけを考えると、私は生きていく」私が、
強い母親になった瞬間でした。

人生には、それぞれのステージで乗り越えなければならない課題があり、そ
れを乗り越えたら、人はまた一つ成長するのだと思います。高校生には高校生の
乗り越えなければならない課題があり、社会に出ればまた違った課題があり、親
になつたら親になった課題があり、老後には老後の課題がある、人生とは乗り越
えなければならぬ課題の連続だと思うのです。でも、その課題を乗り越えられ
ば、確かに人生は豊かになり、見える景色はもっと鮮やかになり、人をもっと愛
おしく想い、そしてかけがえのない1日1日を命いっばい笑顔で生きよう、そう
思えるようになります。父の死と娘の誕生は、私を強い母親にしてくれました。
人生どんな困難にあっても、「生きていたらなんとかなる」そう笑って思えるよ
うになりました。

今日も私は、素敵な生徒たちに支えられ、自分の夢を追い続けられるこの三崎
高校で、命いっばい笑顔で生きています。そして、これから。

みさこうフェスティバル

9月18日（月・祝）に、三崎小学校体育館でみさこうフェスティバルを行いました。吹奏楽部の演奏のほか、歌やダンスなどを披露し、保護者や地域の方々と楽しい時間をもつことができました。また、今年度は伊方中学校吹奏楽部にも参加していただきました。中学生のサウンドに高校生たちもいい刺激をもらっていました。吹奏楽部の3年生はこれで引退となります。地域の方々からの盛大な拍手に包まれて感動的なフィナーレとなりました。これからは1、2年生部員がみさこうサウンドを継承していきますので、今後の活躍にご注目ください！

11月3日（金・祝）の文化祭では吹奏楽部の演奏や合唱コンクールなどを行います。ぜひ御家族でお越しください。



生徒会スタート

生徒会長	田野内 咲成
生徒会副会長	原 朋之介
生徒会副会長	漣 俊輔
生徒会書記	津末 ゆきえ
生徒会書記	前 和幸
生徒会会計	宇都宮 彩那

9月20日（水）に生徒会選挙を行い、10月から左記の表のメンバーで生徒会活動を開始しています。生徒会長の田野内咲成さんは「先輩方のようにみんなから慕われる生徒会長になりたい。学校行事やイベント等を充実させて全校生徒が楽しいと感じる学校を作りたいと思う。」と力強く話していました。保護者の皆様の生徒会活動への御協力をお願いします。